

## ⑦4 令和6年能登半島地震及び令和6年9月20日からの大雨に伴うTEC-FORCEの自治体支援活動

受賞機関 国土交通省、国土交通省 北海道開発局、国土交通省 東北地方整備局、国土交通省 関東地方整備局、国土交通省 北陸地方整備局  
国土交通省 中部地方整備局、国土交通省 近畿地方整備局、国土交通省 中国地方整備局、国土交通省 四国地方整備局  
国土交通省 九州地方整備局、内閣府 沖縄総合事務局、国土交通省 国土技術政策総合研究所  
国土交通省 国土地理院、国立研究開発法人土木研究所  
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

**キーワード** 広域派遣、TEC-FORCE、  
道路啓開、被害状況調査、支援物資輸送

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

令和6年元日に発生した能登半島地震は、多くの人的被害、住家被害やインフラ被害のほか、道路寸断による多数の孤立集落が生じた。また、令和6年9月20日からの大雨（奥能登豪雨）では、能登半島地震の復旧途上にある中、過去に例のない洪水氾濫や土砂災害が多数発生した。これらの災害の発生直後から、全国の地方整備局や研究機関等からTEC-FORCEとして延べ約29,500名の職員が派遣され、道路啓開や被災状況調査等の公共土木施設への対応にとどまらず、物資調達、電源の確保や給水活動などを実施し、救助・救援、二次災害の防止、早期復旧などに大きく貢献したことが評価された。

### 1. はじめに

令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6、深さ16kmの地震が発生し、輪島市、志賀町で最大震度7を観測した。この地震は、能登地方を中心に富山県や新潟県にも甚大な被害をもたらし、「令和6年能登半島地震」と命名された。

地震の復旧途上にあった同年9月20日頃から日本海に停滞した前線により能登地方で線状降水帯が発生し、21日10時50分に輪島市、珠洲市、能登町に大雨特別警報が発表される事態となった。輪島市及び珠洲市では、日最大1時間降水量及び月最大24時間降水量が、統計開始以来最多となる大雨が記録され、奥能登地域を中心に再び甚大な被害が生じた。

### 2. 事業の概要

能登半島地震では、全国のTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）が発災直後から集結し、24時間体制で情報収集や応急対策（道路啓開、電源支援、給水支援等）に当たった。また、被災状況調査（被災建築物応急危険度判定を含む）、高度技術指導、支援物資輸送など、様々な活動を実施した。

半島特性による進入・活動の困難さ、通信障害の発生、厳冬期という厳しい環境下での活動となったが、防災ヘリ、UAV、Car-SAT、各種災害対策車両や船舶等を活用し、陸・海・空の総力を挙げて対応した。TEC-FORCE延べ派遣人数は25,967名に及び、令和元年東日本台風（30,513名）に次ぐ、歴代2位の派遣人数となった。また、TEC-FORCE派遣期間は、歴代最長の152日間となった。

9月20日からの大雨では、輪島市、珠洲市、能登町の広範囲で河川氾濫、土砂災害が発生し、多くの集落が孤立した。再び全国から集結したTEC-FORCE（延べ

3,448名）は、道路啓開、被災状況調査、高度技術指導、排水ポンプ車・照明車・給水機能付き散水車等による応急対策支援等に当たった。度重なる災害により、被災地周辺における活動拠点の確保が困難であったため、長時間の移動を伴う、遠方を拠点とした活動となった。



被災状況調査（砂防）  
支援物資海上輸送  
能登半島地震に伴う活動



道路啓開  
給水支援  
9月20日からの大雨に伴う活動

### 3. 事業の成果

被害が甚大で、被災自治体による対応が困難な状況の中、TEC-FORCEの総合力と現場力を活かした支援を行った。これらの活動は、建設業関係団体、自衛隊、警察や消防等の各機関と連携して行うことにより、人命の救助・救援、二次災害の防止、被災状況の早期把握及び被災施設の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体や地域住民から高い信頼を得た。

### 4. おわりに

令和7年6月4日に公布・一部施行された改正災害対策基本法では、能登半島地震の教訓などを踏まえ、国による自治体への支援体制の強化が盛り込まれた。

法改正の趣旨に基づき、迅速かつ的確な被災地支援が行われるよう、今後もTEC-FORCEの体制・機能の強化・拡充に努めていく所存である。